

総務文教委員会記録

令和4年11月24日（木）

15時02分～16時26分

全員協議会室

- 【委員】 永見委員長、三浦副委員長、
肥後委員、大谷委員、芦谷委員、佐々木委員、西田委員
【議長・委員外議員】 笹田議長
【事務局】 松井書記
-

【議題】

- 1 はまだ市民一日議会での発言内容の今後の取扱いについて【総務文教委員会分】
（委員間で協議）
- 2 その他

【議事の経過】

[15 時 02 分 開議]

永見委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は7名で定足数に達している。レジュメに沿って進める。

1 はまだ市民一日議会での発言内容の今後の取扱いについて【総務文教委員会分】

永見委員長

10月27日の全員協議会で今後の対応についての方向性が決まり、当委員会では1番、4番、6番、9番、10番の5件を扱うことになった。11月4日に参加者全員に、この対応欄に書いてある内容が通知されており、割り振られたテーマについて各委員会での対応状況を12月下旬に再度参加者に通知する流れになっている。このため、12月19日の全員協議会で参加者に通知する内容を確認する予定である。本日は、どのように対応していくか方向性を協議したい。

1番「学生の地域活動の現状と浜田市における地域交通」から進める。皆から意見があれば伺いたい。

佐々木委員

発言者本人に聞き取りをしないと不透明な部分がある。まず旭町での活動と言われていたが、どういう立場で活動に参加しておられるのか、はっきりしなくてはいけないと思う。例えば大学のゼミなどで活動するなら大学から費用が出ると思うし、町内などの団体の手伝いという立場で活動されたとするとまちづくり交付金などの費用対象になると思うが、全くそういったことではない民間の活動なら、発言されたとおりになかなか交通費が捻出しにくいと思う。

それと、当日、本人に、学生がボランティア活動をするに当たり、移動に対する支援制度がないのかと尋ねたところ、制度としてはあるようだが申請が難しいとか、対象になりにくいのかかわからないが、一応制度はあるということだったので、その辺を大学に聞いて、本当にそういうものが使えないのか、もしくは地域のためにやっておられるなら使えるようにするような働きかけができないか、その辺も聞いてみたいと思う。先日の発表の場だけでは実態がわからないところがある。

永見委員長

活動内容について再度確認したいという意見をいただいた。

西田委員

学生たちは浜田市内の地域に出かけて、学部のゼミなどの関係の活動もあるし、それに準ずる個人的な地域とのつながりで動かれることも多々ある。私もそれに関してはおそらく個人的なことで各地域の活動団体とのつながりの中で出かけて行くということだろうと思っている。県大生のこれまでの交通手段は、地域に呼ばれたり、いろいろなところへ行かざるを得ない場合に、例えば弥栄ならバスがあるときはバスに乗って学生に来てもらうが、バスがないときには迎えに行かないと来てもらう手段がないので、個別に迎えに行かざるを得ないと聞いている。複数の方が移動する場合にはまちづくりセンター単位で公共交通の車を用意してもらえたら、地域内で団体行動もできるという話があった。各まちづくりセンターに自由に使えるマイクロバスが1台ずつでもあればよいという声を聞いたこともある。これは旭町で活動するグループのところへ出かけるので、バスが全くない。個人の活動でも大事な活動だと思って

三浦副委員長

いるので、何とかしてあげたい。知恵やアイデアを出すように行政にも訴えないといけないと思う。

佐々木委員が言われたように、現状がどうなのかをもう少し把握する必要があると思う。今回の発表者だけでなく、さまざまな形で地域とかかわっている学生、サークル、ゼミ、任意団体などがさまざまある中で、どういった状況なのかを一旦ヒアリングする形でどうか。

取り組み課題にするのかどうかは別にしても、ヒアリングで状況把握して、西田委員が言われたように何とか学生のサポートをできたらよいと思う。ひょっとしたら既存制度の枠組みの中で、何か情報提供することで解決することもあるかもしれない。現状を把握してこちらで知恵を出し合うのか、意見交換をしてその先にどういう働きかけをするのか、どういう手法があるのか、情報を戻してあげるような形で対応したらよいのではないか。

肥後委員

一番簡単に解決できると思ったのは、格安のレンタカーが出店してくればよいというのが一つあった。もう一つが、確か萩・石見空港でレンタカーを借りるのに半日だったか1日だったか、2千円で借りられる制度があったが、それはおそらく補助金か何かでその値段になっていると思うが、そういった類のものがもし大学生向けにできるなら、市内にレンタカー屋もあるので、通常であれば高いので大学生には負担が大きいですが、公共交通機関となると、弥栄、旭、金城などになると移動が大変だと思う。帰りの時間を常に気にしながら行動しないといけないので、地域に出向いても帰る便がないと、行ったはよいがすぐ帰ることになるのかなと思ひ、個人的にはレンタカーがあればベストだと思った。

三浦副委員長

先日発言者と別の場で会ったときに、私は大学生が車を持っていると思っていたが、今の大学生はマイカーを持たない人のほうが多くなっているという話を聞いた。地域活動の促進や大学と地域の協働を促進するという観点からも、彼らをどう活動するエリアに運んであげるか、アクセスしやすくするかは、非常に大事な視点だと思うので、そういうところからしっかり委員会として取り組むべきものではないかという意識を持っている。

解決策をこの場でどうこうというのは、現状把握もしっかりできていないので、発言者や、場合によっては例えばほかの形で地域にかかわっている学生も呼んで、現状を幅広く聞いた上で対応していくといったやり方もあるのではないかと思う。じっくり委員会で取り組んではどうかという意見を持っている。

芦谷委員

全員協議会の資料にも出したが、今意見が出たようになかなか実態が見えないので、例えば大学の地域連携室と浜田市の大学との連携ポジションがしっかり状況把握をして、送迎の関係、例えばまちづくりセンターと大学の連携室が連絡を取って、こういう学生が行きたいと言え、場合によっては迎いの便宜をまちづくりセンターを介してやるとか、なかなかここで議論しても実態が見えないので、私は本当はその段階で、大学の地域連携室なり市の大学との連携をするポジションなどに話を持って行って、少し前話をしてもらったほうがよいと思った。

永見委員長

皆から意見を伺ったが、活動実態に不透明な部分があるので、そのあ

たりの状況を把握してから対応策を検討する形のほうがよいのではない
かと思うがどうか。実際の活動の内容をもう一度ヒアリングして、確認
しながら進めるのも手法の一つではないか。

大谷委員

委員長がまとめられたように、その方向で、今は判断する材料がそろ
ってないので、まずは調査した上で判断してはどうか。

永見委員長

ではそういう形で、ヒアリングや調査で状況を把握して、それから対
応策を検討するという形でよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

では1番はそのような形にする。

次に4番「中高生のための『居場所』の必要性について」、この対応に
ついて意見があればお願いします。

肥後委員

これも中高生のための居場所と書いてある。小学生からでもよいが、
小学生はまだ放課後児童クラブなどがあり比較的居場所があると感じる
が、中高生になると駅の汽車待ちの時間や、自習したり宿題をやってか
ら家に帰りたい、またそれ以外の部分から、不登校の生徒なども、今は
青少年サポートセンターで見ていると言われるが、そこに通うために保
護者の手が要るということで、各地域にあればよりよいのではないかと
思う。私も数までは把握していないが、不登校の生徒が浜田市にも結構
おられて、不登校から引きこもりになっている方がおられると思うので、
もっと気楽に、家と学校以外の第3の居場所もできる形にしていきたい。
この中で述べられているように補助金などがあれば、もしかしたら空き
家などを活用することができて、市にとっても市民にとってもよいサー
ビスが提供できるのではないかと思う。

大谷委員

中高生に限らず、どの年代も居場所は必要だと思う。とりわけ交流範
囲が大人に比べて少ない中高生においては、ある程度ないとという意見
はあってしかるべきだと思う。その意味で、駅周辺で検討されている場
所も一つの候補地になり得るだろうと思う。時間的なものがどうなのか
懸念はあるが、例えば中央図書館の2階部分は、行事でない限りは活用し
ていないので候補になると思う。益田市立図書館に行ってみたら、2階は
学習室として開放していた。こうした例もあるので、時間的な枠の中で
あれば可能かと思う。

また、まちづくりセンターにおいても、長浜の場合はどの年代も活用
してよいというメッセージが中に書いてあるので、そのあたりはもっと
PRして利用しやすい雰囲気をかもしよう努力すれば、その流れができ
るかもしれない。今、市でも検討している場所は一つの候補として検討
してもよいと感じる。

西田委員

中高生の居場所は、高校が所在する地域に必要なが、それ以外に、各
地域の中学校なら中学校がある地域、通学する過程の中のどこかにそう
いう居場所があったらよいと思うが、それはまちづくりセンターや、地
域の中の民間、公的なあらゆる施設の中から地域の人と考えて居場所を
つくる意識を持つことが一番望ましいと思う。何でも行政が考えるのも
大事だが、地域の方から、居場所という空間だけでなく、体験できるの
も居場所の一つとか、幅広い居場所というものを多角的に考えながら、
どこかで有効な何かをする時間をつくるのが居場所づくりだと思う。

行政の力も大事だが、地域の中で居場所を求めている子どもが多ければ地域の中でそれを考える、ニーズに応じてあげようとする意識を持って考えることも大変重要だと思う。

佐々木委員

当日発言された中から聞き取ると、中高生の場合はほかの地域ではほとんどNPOが運営している、浜田の場合はできれば自治体にそういう指導をしてほしいということで、具体的にはまちづくりセンターを拠点にして行ったらどうかという意見だった。

具体的にどういう居場所のイメージかということ、今やっておられる川本町のあそラボなど、特に子どもに対して世話をするのではなく、手をかけることはしていないという話だった。そういうことからすると、まちづくりセンターに誰か別の人を配置してということではなく、居場所を提供しておけば、Wi-Fiもあるし誰か同じような人が来れば、それはそれで居場所として成り立っていくのかなと、そういうイメージだったが、この方が言われるとおりまちづくりセンターにそういった拠点ができないか、少し探って提案なり、まちづくりセンターの反応なりを見定めていくようなことも必要と感じた。

芦谷委員

場所があっても通うのが難しい。私はこの話を聞いたときに、特別支援学級か特別支援学校のことかと思った。それはさておき、浜田高校の場合は、駅前の福屋か岩多屋の跡地にしっかりしたものをまずつくること、商業高校であれば長浜のまちづくりセンターにそういった場所を設け、水産高校についてもそれを考えることだと思う。中学生の場合は通うのが難しいので、近くのまちづくりセンターや公共施設など、これも学校側や生徒の意向をしっかり確認しながら、何が本当に必要なのかを確認してやらないと、まず先行して駅周辺にそういったものをつくっていけばよいと思う。

考えないといけないのは、以前朝日町にも紺屋町にもあったが、そういうものをつくっても長続きしないとか、地域の連携や運営するスタッフの問題があるので、よくよく学校側と、地域に応じてしっかりした状況把握をしたらと思っている。

三浦副委員長

もう少し勉強したいと思っているのは、居場所といったときに、どんな居場所が心地よいのかということである。学習スペースが欲しいのと中高生の居場所はまた違う話であって。単純に場所を設けるだけでよいのか、例えば学習スペースなら区切られた空間がよいのか、大きな机があってそこに皆で座る形がよいのか、空間のつくり方もあろうし、求められているものやどういうものを提供すべきなのかは、議論した上で、一概に箱を用意すればよいというものではないと思っている。

今、浜田駅前の場所も話に上がっているが、例えばそこに大学生を呼びたいのなら大学生が活動しやすい環境を整備しないといけないし、中高生に寄ってもらうならどのようにしておくのがよいのかという話はきちんとしておかないといけない。そういう意味で、私は全員協議会のときに、4番と6番を一緒に考えたらよいのではという話を出したが、単純に答えが出そうにないところがあり、タイムリーに駅前の話も出ているので、そこと関連づけて、対象をどうするかも含めて、最適な居場所とはどういうものか議論するのはよいと思う。

永見委員長

まちづくりセンターを活用するとか、6番との兼ね合いもあるのではという思いもある。市内での居場所づくりと周辺部の居場所づくりについて検討する必要があるのではないかと思うので、副委員長から意見があったように、どういう居場所が実際に必要とされているのか確認しながら、まちづくりセンターや、6番も関連すると思うので、これもヒアリングという形にしてはどうだろうか。

西田委員

居場所づくりの必要性、目的というのが、今中高生がどれだけニーズとして居場所を求めているのか、そのための居場所づくりなのか。放っておいたら不登校が増えるとか、そういうことを解消するための居場所づくりなのか。それとも最後に大人を巻き込んで構想を進めていきたいとなると、最近の若い学生たちはコミュニケーション能力がどうしても不足しがちで、特に地域の中でも大人とのかかわりが不足していると思う。そのためにはもっと広域的な場所で、不特定多数の老若男女とのかかわり、コミュニケーションの中でそういう能力を養うための、戦略的な意識があるのかどうか、必要性の目的を探ってもよいと思う。

大谷委員

西田委員の話聞きながら頭に浮かんだのが、浜田高校HIRAKUの活動の中で、課題解決に向けてフォークダンス形式のトークでプレゼンを聞いた。あのような活動も一つの例として、逆にこのテーマに類するようなことが問題になっているから、そうしたものを取り上げて提案してみてくださいか、学校の先生方の指導にもお手伝いいただきながら投げかけてもらって、その中から出てくることを見定めてもよいと思った。

佐々木委員

当日の発言を聞き直したが、この発言者は自身が川本や都野津で居場所を提供されていて、特に川本の高校には県外から来ている生徒が多くて、想像するにいろいろな意味で精神的にマイナスになっている子どもももしかしたらいて、その子たちが結構その場所に来ているという話だった。都野津のほうはそれほど需要がなかったようなイメージがある。

どういった居場所かという、来る人によって求めるものがいろいろあると思う。一人になりたいとか、家ではないほかの場所で過ごしたいとか、誰かと少しでも話をしたいとか、だからこういう居場所ならよいと思って設定しても誰も来ないことも当然想定される。その辺も覚悟の上で設置に向けて動くのか、それとも学校関係者や子どもに携わっている方々の意見を聞いてつくっていくのか、それとも少し様子を見るのか、いろいろな選択肢があると思うが、ただ居場所をつくるのにある程度限定したものをつくると、ニーズに合わないこともあるということを見据えながら考えていかないといけないと思う。この方がやっているのは、既に自身が体験済みで、必要性を感じて提案されたということなので必要性は確かにあると思うが、どういう居場所がよいかというそれはなかなか難しいと思う。

三浦副委員長

サードプレイスという言葉がある。家庭と、職場や学校と、それからもう一つの場所みたいな所で、そういうところが心地よい、そういうものを皆求めているとか、そういうことがあると思う。音楽教室、書道教室かもしれないし、カフェかもしれないが、皆が使う第3の場所をつくるのは非常に難しいと思う。もっと言えば行政施策としてそれをどのよう

に設けていくかは、ある形よりも、例えばソフト的なことかもしれないし、例えばまちづくりセンターを使いながらそこにいろいろな機会、語学教室でも料理教室でも何でもよいが、そういうことでいろいろな場所をつくっていかうといった政策かもしれない。心地のよいサードプレイスや居場所づくりをどのようにまちづくりの中でできるかといったことであれば、議会あるいは委員会としても検討に値するテーマだと思うが、個別のテーマについて、これを全体として必要な居場所だというのは、なかなか決めてかかるのは難しい。

もう一つ、4番と6番を一緒にとったのは、今執行部が駅前にあのような場所をつくろうと計画しており、今までの委員会でも報告されているが、委員会で執行部の考え方をしっかり整理するように各委員も意見している現状があるので、それはそれで所管事務として追っていくとか、テーマを分けて考えるとよいと思う。市が設けようとしている計画については、委員会としてよりよい場所になるように所管事務でしっかり追っていくと返答するとともに、もう一つ、もっと大きな意味での居場所づくりというのはどういったものがよいのか取り扱ってみようという合意形成ができるのであれば、それを一つの取り組みテーマとして扱ってもよいと思う。

少し脱線するかもしれないが、総務文教委員会は取り扱う分野が広く、こうやって意見が出てもととても多い。これを委員会の7人メンバー全員で一つ一つやっていくのはとても大変なので、あくまで提案だが、例えば担当制にして、公共交通について調査研究してみる2、3人のチームをつくり、ここに出して皆で協議するというを同時並行的に進めていけば、取り組み課題といっても一つ決めて皆でやっていくのはそれなりの時間もかかるし、それぞれに関心のあるテーマを2、3人のチームをつかって対応していくということであれば、例えば学生とヒアリングするといったときも、全員で日程調整しなくても、2、3人でヒアリングして対応していくようなことも方法としてはあるのかなと思う。全部大事な意見なので、どのように取扱いを進めようか考える中でそのようにも思った。案として提案してみたい。

永見委員長

居場所づくりについては、実際に中高生がどのような居場所を必要としているのかということもある。学校側の意見も伺いながらという形になろうかと思うし、まちづくりセンターを拠点とした居場所づくりと記載されているように、地域の方を巻き込みながら場所づくりということであれば、例えばまちづくりセンターでそういうスペースをひとまず確保し、その中で地域の中高生がそこを活用できるなら、学校側の意見も聞きながらという形で、まちづくりセンターの職員たちの意見もある程度参考にしながらという形で、とりあえずスペースを設けるのも一つの手法ではないかと思う。それを活用してもらえるかどうかも定かでないので、所管事務調査に取り上げておいて、執行部の意見も聞きながらという形で進めて方法はどうか。

三浦副委員長

発言要旨の中にも、勉強場所を求める高校生がいたりといったことも触れられている。だから居場所といっても幅広いという印象を改めて持っている。中高生の居場所づくりが必要なんだという意見に対して、

我々も理解を深めていくというのであれば、先ほど1番の意見ももう少しヒアリングしようという対応を考えたが、そういうやり方でもよいのかなとも思うが、皆はどうか。

大谷委員

発言者の趣旨を確認することについては、必要性として異論はない。居場所についてだが、1週間の日にちと時間の表を頭に浮かべてみてほしい。平日は当然学校があるが、日曜は部活の子以外はあいている。しかしその日まちづくりセンターは閉まっているので、どこかないかという発想はあるかもしれない。問題は放課後だが、部活をやる子は部活に行くので必要ない。問題は終わった後、汽車待ちの時間が一番どうしてよいかわからないのだろう。浜田高校の例を挙げると、私の記憶では19時までには教室での居残りを認めているので、そこまではできる。しかしそれ以降はどこで過ごすかということがあると思う。図書館に行った場合でも同じことが言えるのではないか。そうした曜日や時間帯を見たときに、ある程度ニーズが見えると思う。土日の場合、家にいるとどうしても家の気分で勉強にならないから図書館に行くなど、違う場所を求めることはあると思う。土日、模試などで学校を開けたときにはいてよいといった対応は取っているが、どの時間帯が空白なのでそこをどうしたらよいかなど、絞りながらだと、どういう対応を取ればよいかということが見えやすいのでは。

永見委員長

対応策については、副委員長からヒアリングという意見が出た。中高生のヒアリングを行い、実際にどのような居場所のニーズを持っているのか確認して、居場所づくりについて対応を検討する形のほうがよいのではないか。

大谷委員

副委員長からも発言があったように、全員で対応といってもなかなか難しいので、2人くらいのチームで担当するのは一つの案としてはよいと思う。

永見委員長

この問題については、委員会の中である程度チームを組み、対応策を検討する形の意見が出たがどうか。

(「異議なし」という声あり)

では、この項目についてはヒアリングを行い、中高生のニーズも確認しながら対応するというところで、委員会の中で2人なり3人なりのチームをつくって対応していきたい。

続いて、6番「公共交通機関利用者により便利を」について、これは居場所の意味合いが先ほどとは若干異なるように思うが、皆の意見をお願いする。

大谷委員

4番と一緒に取り扱ったらどうか。

三浦副委員長

先ほど申し上げたが、具体的な場所の検討を今執行部がしているところが対象になると思うので、場づくりの過程を今後委員会できちんと把握しながらニーズを伝えていくという形で扱っていけばよいのではないか。発言者に対しては、今執行部が計画しているものに対してきちんと利用者のニーズを踏まえた場所になるように、委員会としても働きかけをしていくということで返してよいのではないか。

ただ1点、その検討プロセスに高校生がかかわりたいというのも発言趣旨の中であって、そこをどうするのか。いずれにしても利用者に喜ばれ

る場づくりをしていかないと意味がないので、それに対してはしっかり意見を受けとめたので所管事務で扱っていくという返事で、この件についてはよいのではないかと。

佐々木委員

この件はあまり難しいことではなく、発言の中から具体的な提案があったので、例えば駅に近く、学習や交流できるスペースだとか、一定程度夜遅くまで開いているところだとか、アットホームな雰囲気の場所とか、できれば浜田高校の作品も展示できたかどうかとか、高齢者との交流もしたいなど具体的なことも出ているので、ある程度これに沿った交流スペースをとということで、逐次チェックしながらやればよい気がする。

芦谷委員

中央図書館では浜田高校の生徒が学習スペースやサロンなどで活動しておられる。新聞にもあったが、県立大学の図書館が割と人気があり、浜田高校の生徒も利用している。したがって、浜田駅前の場所を早く整備して、かつて朝日町でやったが長続きしなかったことを振り返りながら、つくるからには高校生が利用できるようなものをつくる必要があると思う。

西田委員

皆の意見と同感だが、執行部が今考えている交流スペースに反対するものではないが、このテーマに沿ったベストなものという私は浜田駅2階の観光協会が、ゆうひパーク浜田を市が買い取って関与する施設となると、その中に観光協会が入れば、いろいろな人が行きやすくなるし活性化し、ゆうひパークもよくなっていく。それで今観光協会が入っている浜田駅2階のあのスペースを浜田高校の皆さんに学習スペースの場づくりとして携わらせて、この中で皆がどのようなスペース、空間を考えているか、皆に知恵を出してもらってつくり、使ってもらえれば安心・安全、JRの汽車が来る直前まで勉強できる、迎えも来やすい、コンビニもある。このテーマに関してはベストはそこかなと思う。執行部が考えておられる内容に反対するものではないが、このテーマに関してはそれがベストだと思った。

永見委員長

旧福屋のスペースについて執行部側で話が進んでいるので、そのあたりを確認しながら、所管事務調査で取り上げて検討する形で本人にお返しする形でよいのではないかとと思うがどうか。

(「異議なし」という声あり)

ではこれについては所管事務調査等で、今後また協議を重ねていくこととする。

永見委員長

続いて9番「自助から共助・公助へ」について、これについて皆の意見を伺いたい。

三浦副委員長

この件については先般の委員会で、民間との災害協定の状況はどうなっているかという質問をして、執行部から一覧表をつくってもらったので、発言者に対して、市としてこういう民間との協定を結んでいるという情報提供をまずするのがよいと思うのと、今具体的にどの事業者と何をするという事ではないので、そういった意見を伺って今後も防災や災害時における対応について、提案されたような意識をしっかり持ってやっていくという返し方で一旦はよいのではないかと。

佐々木委員

今回この方が一番言いたかったのは公助の、企業との災害協定の話だった。浜田市もかなり多くの協定を既に結んでいて、まずその情報を提

供してあげるのが一番大きな回答になると思う。

それと、この中で言われていたのが、地域防災の意識が高まるようにとか、各学校にクロスロードゲームを入れたらどうかとか、具体的なものもあったので、その辺も意識として推進していくということで併せて回答すればよいのではないかと感じた。

芦谷委員

先日市役所の講堂で講演があった。聞いてはっと思ったのが、「自助・共助・公助」というが、本当は公助から共助、自助という順番になるのだという話だった。一般的に防災という場合に、自助や共助に重点を置きすぎて、もっと公助でそういった仕組みをつくる必要がある。例えば最近周布地区で防災訓練をしたが、これは地区社会福祉協議会が主催して民生委員、福祉委員、自治会が参画した。たまたま消防団の行事があったので参加はなかったが、そこに保育園や学校やまちづくり委員会、全てが参加するところから始めないといけない。

災害協定の企業の話があったが、地区には少し高台にある企業もあるし、食品を扱う企業もあるし、土建会社もある。地域にあるものをいざというときに使えるようなことを動員するという意味で、防災訓練はオール地域で参加する。そういったことをしていけば、おのずと地域の防災意識は高まるし、小中学校での理解も進むので、ぜひ防災訓練や防災意識の向上については地域を挙げてやる姿勢をもっと打ち出せばよいと思った。

永見委員長

災害協定はかなりの業者と結んでいるし、ドローンの関係も協定を結び、災害時の対応を計画している。また、地域の防災力向上については、各地域に自主防災組織があり、それぞれの取り組みがあるので、そのあたりも含めて防災力が上がるような形で委員会としても進めていくとお返しするのはどうか。

芦谷委員

災害協定を行政と企業が結んでも、企業と地域がつながっていないと駄目である。そういう面でいけば、災害協定などもその情報は地域の防災トップの人に連絡がないと、市役所から企業に言って、そこから行ってこれでは間に合わないの、地域密着型の協定が必要だろう。

永見委員長

今は、市と企業との災害協定は、例えば物資の提供などはやはり市が中心になって取り扱い、配分をしなければいけない。災害協定の内容によっては芦谷委員が言われたことも含めた話になるかと思うが、今かなりの協定を結んでいるので、そのあたりの情報は提供させていただく。そしてまた、地域の防災意識の向上を進める方法についても今後検討するという形でお返しするのはどうか。

肥後委員

約20年前、浜田市内で60cmくらい雪が積もり、ホームセンターにスコップを買いに行ったらとうに売り切れていた。数年前にはマイナス5度の寒波が同じように沿岸部を襲ったが、しばらく寒波など来てなかったので水道の配管部材がことごとくなかった。幾ら災害協定を市と企業が結んだところで、災害は同時多発的に起きるので、物が無いのは昔から変わらない。だから無理かもしれないが言っておきたいのは、災害協定を結ぶのであれば、例えば冬の凍結災害に限っていえば水道の配管部材を各種ストックして市が買い取るような形にしないと、災害協定を結んだから安心だというのはいさよになってしまうという経験をしているので、執行部

- と内容についても提案、協議をさせてもらいたい。
- 西田委員 市といろいろな企業が協定を結ぶのはよいと思うし、その情報を提供するのもよいと思う。防災意識を高めるための取り組みが発言の一つの要旨だと思うので、特に小学生用の防災ゲームを配付して授業で活用してはということで、活用されたほうが私はよいと思う。また、防災教室ができる企業が市内にもあり、そういったところから市内の学校において防災教室をできないかという声を聞いているが、学校現場も大変になると思う。校長先生の裁量の中で、特にこの学校にはこういった防災訓練が必要だということになれば、学校単位で防災の取り組みはできると教育委員会は言っていたので、市からのいろいろな働きかけもはっきりしていくという答えもよいのではないか。
- 永見委員長 学校での防災教育は進めるべきだと思うし、地震や火災など災害の種類によって防災対応は異なってくるので、学校単位でそのあたりに取り組んでもらうということも、併せて書き加えたらと思うがどうか。
- 三浦副委員長 ゲームの導入という具体的な提案はどう扱うか。そういったことも含めてというように扱えばそれでよいと思うが、私も経験していないのでそのゲームがどういうものなのかはわからないが、わかりやすいように、きちんと意識啓発をしていくというゴールにおいては、手段はさまざまある中で必要な、そこは発言者の意図に共感するところなので、具体策までは言及しなくても、よりわかりやすい啓発活動を教育現場でも行っていくよう執行部に働きかけられると思うし、災害協定も提案者の意図は十分に酌み取れるので、情報提供しつつそういう意識で今後も防災施策に対して、議会としても委員会としても取り組んでいくという答えでよいのではないか。
- 西田委員 防災クロスロードだが、大きくは地震災害と豪雨災害がもしあったときに、あなたならどうするかという問いかけから、最低限命を守るためにはどうしたらよいか、地域の中ではどうしたらよいか、そこから発展して、ゲームをしながらいろいろな防災の意識を学んでいくので、すごくよいと思う。
- 永見委員長 防災意識の啓発活動についても取り上げるという形でお返しすることになると思うがどうか。
- （ 「異議なし」 という声あり ）
- ではそのようにする。
- 最後に10番「文化部活動（合唱部門）の地域移行が提唱検討されている今、浜田市（石見地域）の新しい選択の模索について」、意見があればお願いします。
- 三浦副委員長 部活動の地域移行については、私は個人一般質問で取り上げたこともあるし、先般所管事務で取り上げたところ、まだ国の動きが定まってないので報告する中身がないという回答が返ってきた。これにとどまらず所管事務はかけていきたいと個人的に思っているし、取り組まなければいけないと思うので、発言者には、委員会の総意として問題意識を持っていると返すのか、表現方法は相談だが、少なくとも私個人としては部活動の地域移行はスポーツに限らず、文化部に対しても同じように問題意識を持っているので、地域移行がスムーズにいくよう仕組みづくりを

早くしなければいけない、手をつけなければいけないという問題意識を持っていることをまず返しながら、今後も所管事務で扱っていくというような返事ができたらと思う。私は個人で動くよりも委員会としてぜひ動いていただきたいと思います。

西田委員

三浦副委員長と同感である。それをまとめていただき、報告されたらと思う。

芦谷委員

文科省の方針でスポーツ、文化についての部活動は地域移行がすう勢である。そのボールは教育委員会にあるのでしっかり考えて方向性を出してもらいたい。例えばそれらしい指導者がおられる場合といない場合がある。まちづくりセンターなどでは、書道の大家がおられて周辺で教室をやっておられる例もある。したがって教育委員会をして、できればそういった中高生の部活動の推進に立ち向かえるような指導者の発掘、育成が、市の文化の推進という観点で必要だと思う。

佐々木委員

広く言えば、部活動の地域移行を早くしてほしいということだと思った。地域移行プラス、いろいろな活動をさらに楽しめるような場づくりということも少し提案されたのかなと思った。

練習場所や費用などの問題は教育委員会にも相談されているようだが、既に検討しているか知りたいという具体的な疑問も言われていた。この辺は所管事務調査で、教育委員会がどの程度この問題を把握し、どういう見解を持っておられるかも含め、また、例に挙げた津和野のような形も今後考えられるのかというようなことも含めて、部活動の地域移行は所管で今後問うていけばと考える。

永見委員長

部活動の地域移行が進むように所管事務調査で取り上げていくという形でお返しできたらと思うがどうか。

(「異議なし」という声あり)

ではそのようにする。

当委員会が対応する案件について皆の意見が聞けたので、これをまとめて各発言者へお返しする形で進めたい。

2 その他

永見委員長

特にないようなので、以上で総務文教委員会を終了する。

[16 時 26 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 永見 利久